

产学連携で 地域経済をパワーアップ!

きぎょう発 → かいぎしょ → だいがく行

当会議所では、地域産業の活性化を目的に、会員企業と大学の連携を推進しています。愛媛大学社会連携推進機構の協力のもと、毎月、愛媛大学発のホットな情報を提供します。ぜひ、ご一読ください！

第98回

「食を科学する」ことで医療・健康産業の発展を

～地域協働センター中予の取り組み～

愛媛大学では、地域の皆様と協働して地域活性化に貢献する「地域協働センター」を県内に展開しており、2016年に西条、2019年に南予、今年3月に中予が新設されました。地域協働センター中予は、松山市と東温市を拠点に活動し、さまざまな産業の支援を目指しています。今回は、大学院医学系研究科教授とセンター長をお話を伺いました。

—プロフィールを
教えてください。

出身は鹿児島市です。鹿児島大学医学部を卒業後、整形外科の臨床研究と大学院を経て、整形外科専門医を取得しました。平成6年に鹿児島大学医学部付属病院の助手を務め、同年スウェーデンのルードヴィヒがん研究所に留学しました。帰国後は東京のがん研究会がん研究所生化学部で研究を継続しました。平成22年から、愛媛大学大学院医学系研究科分子病態医学講座教授、そ

の2年後からは愛媛大学医学部附属病院先端医療創生センター長を兼任、そして、今年3月に地域協働センター中予のセンター長を拝命しました。今も整形外科臨床をしながら、医学部教育や、がん整形外科疾患の研究、バイオイメージング技術開発など多岐にわたりて活動しています。

—活動内容について…

医学部・附属病院では、東温市や企業と連携した、とうおん健康医療創生事業を中心として食と健康を疫学的に調査す

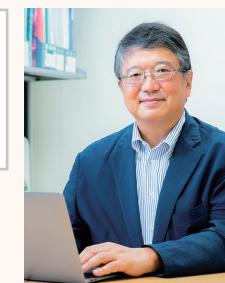
る愛大「ホート研究、もち麦を用いたレシピの作成、東温市の自然や施設・食材等を活用した抗加齢体験ができる「さくらの湯ブランチ」など、ヘルスケア事業支援を展開してきました。最近では、新型コロナ対策の医療用ガウンとフェイスシールドを地元企業と共同開発するなど、も

のづくりにも力を入れています。地域協働センター中予では、元企業と共に開発するなど、も

のづくりにも力を入れています。地域協働センター中予では、元企業と共に開発するなど、も

のづくりにも力を入れています。地域協働センター中予では、元企業と共に開発するなど、も

本学の医学部に新設された日本初の医農融合の大学院と連携し、体内や食品の代謝産物を計測できる最新技術の活用によって、食品の中身をより学術的に科学的に検査する評価を必要としている食品関連企業や、消費者のニーズに応えたいと考えています。例を挙げると、お酒の製造に欠かせない酵母や、発酵中に生産される味や香りに関係する代謝産物を計測し、酵母の新たな機能を解明することで、商品の付加価値を高めることができます。また、機能性表示食品はハードルが高いですが、食品の成分を科学的に分析し、生活食習慣の疫学調査データと組み合わせることで、成分表示によって商品の付加価値を高めることができます。東温市発のヘルスサイリンクスを、県内全域に広げていきたいと思つておりますので、ご協力いただけますと幸いです。



愛媛大学
地域協働センター中予 センター長

大学院医学系研究科
分子病態医学講座 教授 今村 健志氏

ラ・サール中・高校時代はバスケットボールに打ち込み、インターハイ出場経験も。スポーツ医学で米国ユタ大学に短期留学したが、後のスウェーデン留学で生涯のメンターとなるヘルディン博士（現ノーベル財団理事長）と出会い、がん研究の道へ。目の前の患者を治す医療はもちろん重要であるが、何百万人もの命を救える可能性がある研究に夢を感じる」と話す。